

「半田空の科学館」天文指導員 桜井守さん(71)



さくらい・まもる 1946年生
まれ、名古屋市出身。69年に県
警に入り、地域課などに勤務。
62歳で半田空の科学館の職員に
なった。国内外に天体観測に出
かけるのが楽しみで、知多半島
天文普及ボランティア「ふくろ
うの会」会員も務める。好きな
星座は「いるか座」。

40歳の頃、半田空の科学館(半田市桐ヶ丘)でボランティアを始め、天体観測イベントの手伝いをするようになつた。仕事の合間に縫つて星の知識を深め、望遠鏡の使い方

「今夜は月と木星、土星が一緒に見られる、ちょっとデラックスな夜です」。『今日の夜空』を映し出すプラネタリウムで、ユーモアたっぷりのアナウンスを優しく響かせる。元警察官という異色の経歴から「スター・ポリス」の愛称で親しまれている。

40歳の頃、半田空の科学館(半田市桐ヶ丘)でボランティアを始め、天体観測イベントの手伝いを

も独学で覚えた。定年後に同館の職員になり、アラネタリウムでの解説を任せられるようになつた。しかし当初は人前で話すのは苦手だったといい、「誰もいない車の中で、一人で声に出して繰り返し練習した」と振り返る。現在も休日は天体に関する本を読みあさる。「大好きなことだから、努力も苦ではないです」幼少期から空を見上げるのが好きだった。印象

に残っているのは、5月の頃、自宅近くの銭湯に行く途中で見た月だ。「歩いても僕についてくるように見えて。」思議でねえ。小学生だった1955年には、旧連が打ち上げた世界初の人工衛星「スプートニク」を「目見よう」と日本空を通過する時間に目に見えた。見えたところだ。「記憶はないけど、とにかく必死に空を見上げ、ことはよく覚えている

で、夜、望遠鏡を使って星を見るイベントを開催する。「小規模の科学館ならではのイベント」と一人一人に望遠鏡を操作させる。星が見えるかどうかは天候次第。「予定通りにいかないのも楽しみの一つ」と笑顔で語る夏休み中はいつも以上に多忙だが、「毎日が楽しい」。第二の人生はまだこれから。星に負けじと輝き続ける。

【野村阿悠子】

会になるかもしれない。
だからこそ多くの子ども

星より輝く第二の人生

会になるかもしれない。
だからこそ多くの子供が
に星に触れる機会をつか
ていい。3月は賛同金額